

出題分析		
試験時間 2 科目で 150 分	配点 60 点	大問数 3 題
分量（昨年比較）〔減少 同程度 <b>増加</b> 〕		難易度変化（昨年比較）〔易化 <b>同程度</b> 難化〕
<p><b>【概評】</b></p> <p>全大問を通じた総小問数は 23 問で、昨年度の 25 問より 2 問少ない。全大問の論述小問数は 19 問で、昨年度より 2 問多い。全大問の短答記述問題は 4 問で昨年の 8 問から 4 問減った。論述問題（1 行は 30 字）の総行数は 39 行で昨年度の 33 行から 6 行増え、解答に時間がかかる。4 行以内で述べる小問は昨年度に続き今年度も見られない。3 行以内で解答する小問は 4 問で昨年度より 2 問増え、2 行以内で解答する小問は 12 問で昨年度と同数、1 行で解答する小問は 3 問で、これも昨年度と同数であった。指定語句をすべて用いる論述は、第 1 問の設問 A(1)、第 2 問の設問 A(3)と(4)、第 3 問の設問 A(2)の計 4 問で、昨年度より 1 問増えた。語群から適当な用語を 2 つ以上用いる論述は、昨年度同様見られなかった。地形図、地理院地図を使用した問題は、昨年度に続いて見られない。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	自然環境への人間活動の影響	設問 A の(1)は地球温暖化により、太陽光反射率の高い海氷や積雪が融解して気温が上昇することを書く。(2)は 海水面の膨張について触れる。(3)は永久凍土の融解により、メタンガスが放出されることなどを述べる。(4)は建物の損壊を事例とすると書きやすい。設問 B の(1)は 4 つの河川流域の気候から考察する。(2)と(3)はダムとえん堤の建設が進む中国と東南アジアで土砂流出量が対照的な要因を問うており、やや難しい。(4)は災害の軽減にも増大にも関わる河口砂州の影響を問う問題で、手堅く解答したい。	標準

設問別講評			
2	近年活発化する経済・余暇活動	設問 A の(1)は事業所の立地適性で、基本的である。(2)は日本の衣類輸入先において中国の割合が低下した理由を問うた問題である。(3)はあまり例のない問題であるが、2つの指定語句から推測する。(4)は中古の衣類の輸出規制を扱った良問で、輸出先の衣類企業の保護、中古の衣類の処分に着目する。設問 B の(1)では、北海道と福岡県の人口は近似しているが、日本人延べ宿泊者数では北海道が多い。(2)は首都圏の神奈川県、中京圏の愛知県、近畿圏の兵庫県の各位置づけを考慮して書くが、3県の共通の特徴はやや難しい。(3)は観光の隆盛の一方で都市住民の都市内での居住地選択に変化が生じることを取り上げた時宜にかなった問題である。(4)は観光客の増大と生物多様性の問題で、工夫されている。	標準
3	人口の分布と移動	設問 A の(1)は年次比較から平易である。(2)は指定語句2つのうち時間距離よりも港湾都市が使いにくい。(3)は2000年代以降の人口の都心回帰を念頭に置いて書く。設問 B の(1)は在外日本人の一時帰国と予防接種の普及、マスク、消毒の徹底を述べる。(2)は10代後半から30歳ぐらいまでの外国人の一時帰国を考える。(3)は罹患者数の多い東京都からの移動とテレワークを念頭に置く。(4)は通信機器による位置情報の取得を書く。	標準

#### 合格のための学習法

東京大学の地理問題は、教科書レベルの基本的内容をもとに思考させる出題が中心となっているが、様々な地理現象がどのようにして形成されるかを十分に理解していないと、出題者が求める正確な解答が難しい。東京大学の地理で高得点を得るには、(1)学習の手薄な分野を作らないこと、(2)地理の科目固有の思考力・洞察力を涵養しておくこと、(3)時事的な出来事とその背景に注目しておくこと、(4)過去問演習などを通じて、30字から90字程度の論述の練習を十分に積んでおくことの4点が必須である。